

積雪演算

▽GL

あらわになる地形と耕される農地
GLは開かれ、農の営みが息づく場となる
土を耕し、水を巡らせ、実りを育む

雪が降り積もり地形は埋もれる
白い大地の上に新たなGLが生まれ、人々が歩む
雪が形を変え、風景と建築をつなぐ

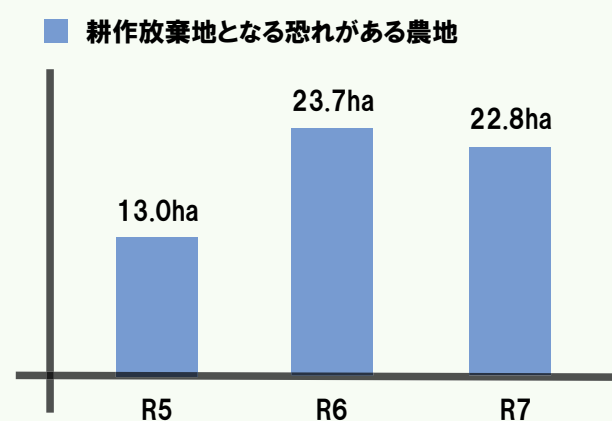
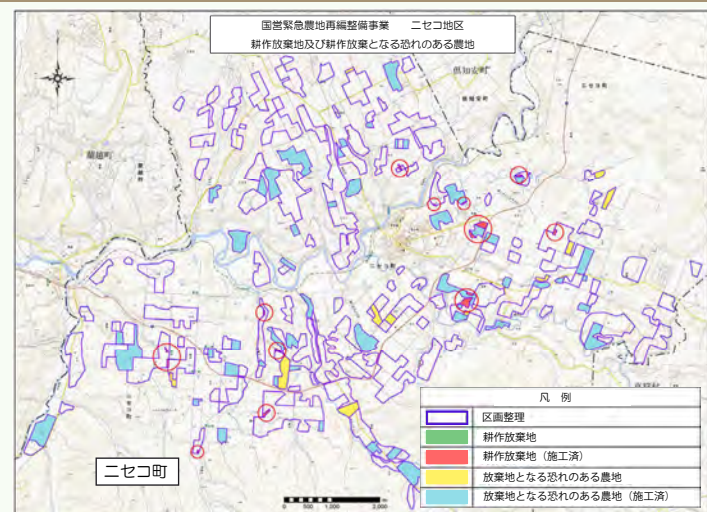
現れるGLと積み重なるGL

その往復が、加算と減算、分割と統合を繰り返しながら、風景と建築を形づくる



A-A 断面模型

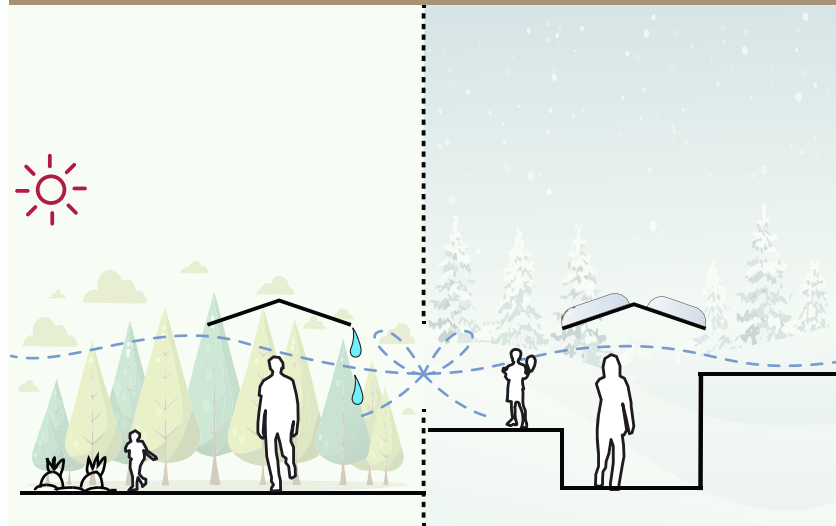
01 敷地とその課題



私たちは、北海道のニセコ町を課題地に設定した。この場所は冬場はスキー観光によって国際的なリゾート地として栄える一方で、夏場は閑散とし農業は衰退し耕作放棄地が増加している現状にある。農地が観光開発に置き換わることで、地域の農業自給率は低下し冬場には町全体が食糧不足に陥るほどである。

農地が観光開発に置き換わることで、農地の食料自給率は低下し、風景が変わりつつある。この悪循環を断ち切り、この土地の課題を解決するために、農地とリゾートが共存し耕作放棄地となった土地のポテンシャルを最大限に引き出す新たな宿泊施設を提案する。

02 積雪演算によるGLの再定義



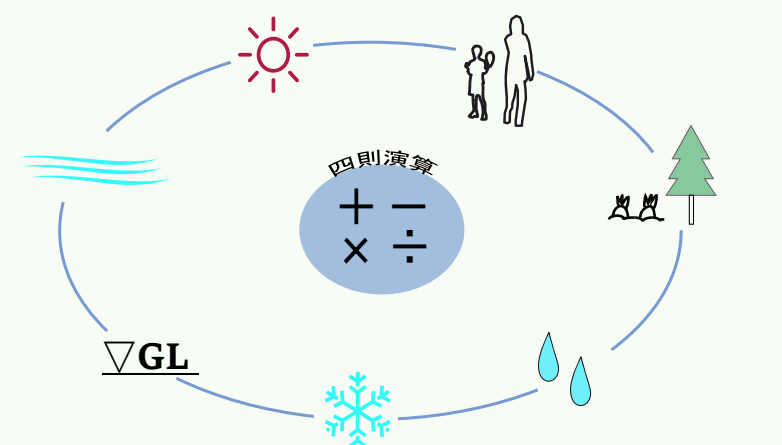
私たちはGLを固定された地面の高さではなく、積雪によって変化する「流動的な地形」と捉える。冬には積雪がGLを押し上げ、視点や動線が変化し、季節ごとに異なる空間体験を生み出す。この変化を「積雪演算」と名付け、建築と地形が雪と共に再計算される新たな設計手法を提案する。

03 四則演算の問い

$$\begin{aligned} 1 + 1 &= 2 \\ 1 - 1 &= 0 \\ 1 \times 1 &= 1^2 \\ 1 \div 1 &= 1 / 1 \end{aligned}$$

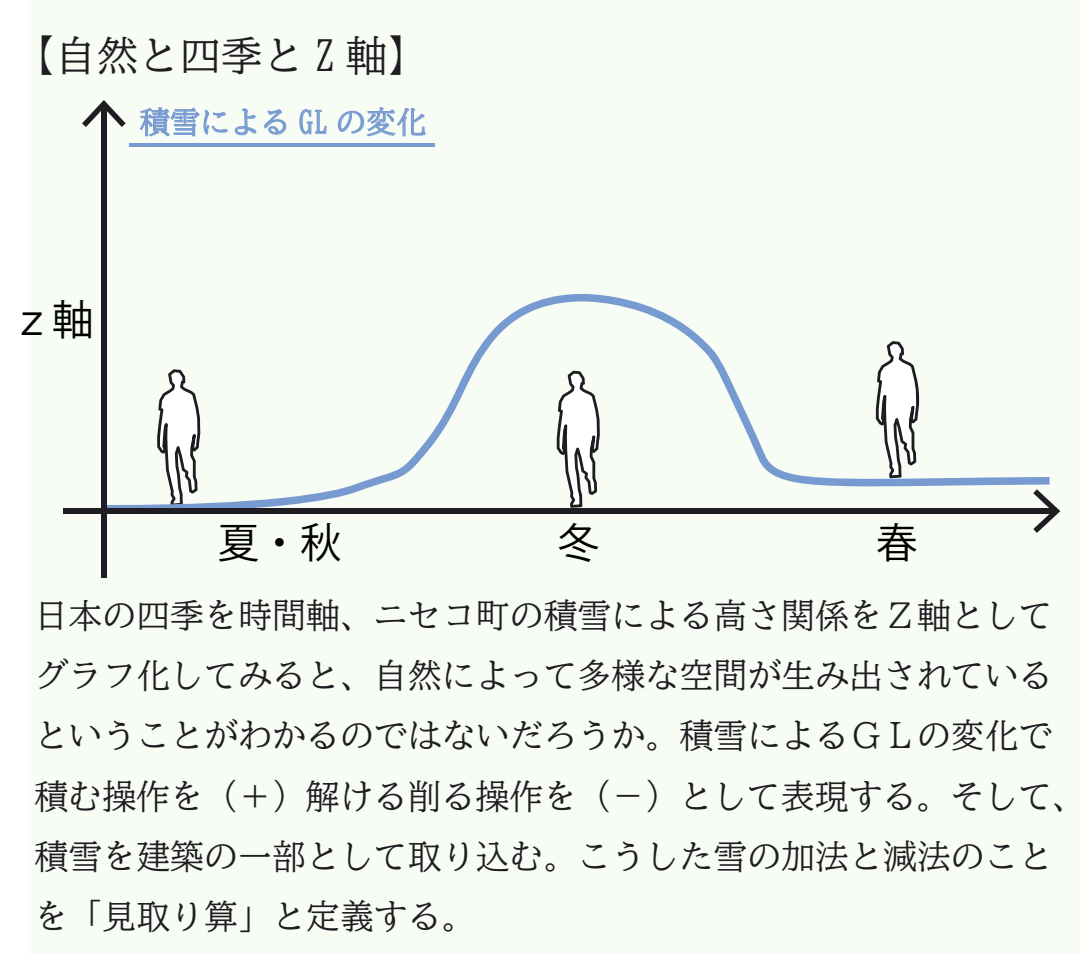
ここでは、その問いの課題に対する解がどのような計算式によって導き出されるかという、過程の方程式に着目してみる。四則演算（ $+$ $-$ $\times$ $\div$ ）では、同じ二つの要素で計算を行った場合でも異なる解が導き出されることに着目した私たちは、それらを建築と自然に置き換え四則演算を施し、様々なアプローチでの課題解決を試みた。

04 四則演算の答え

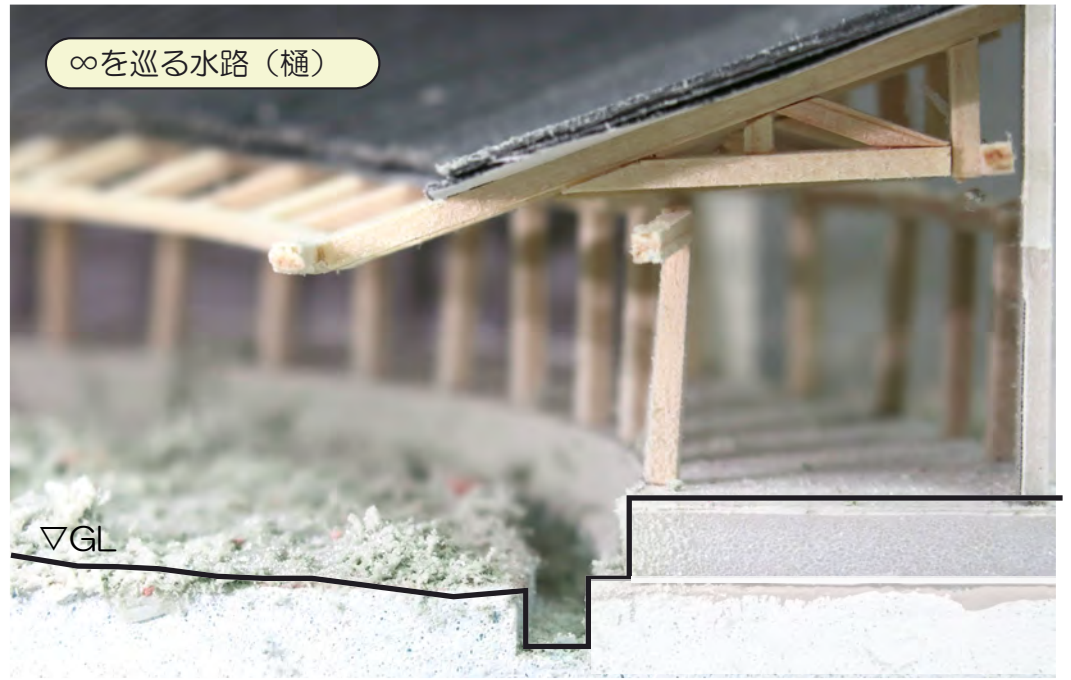
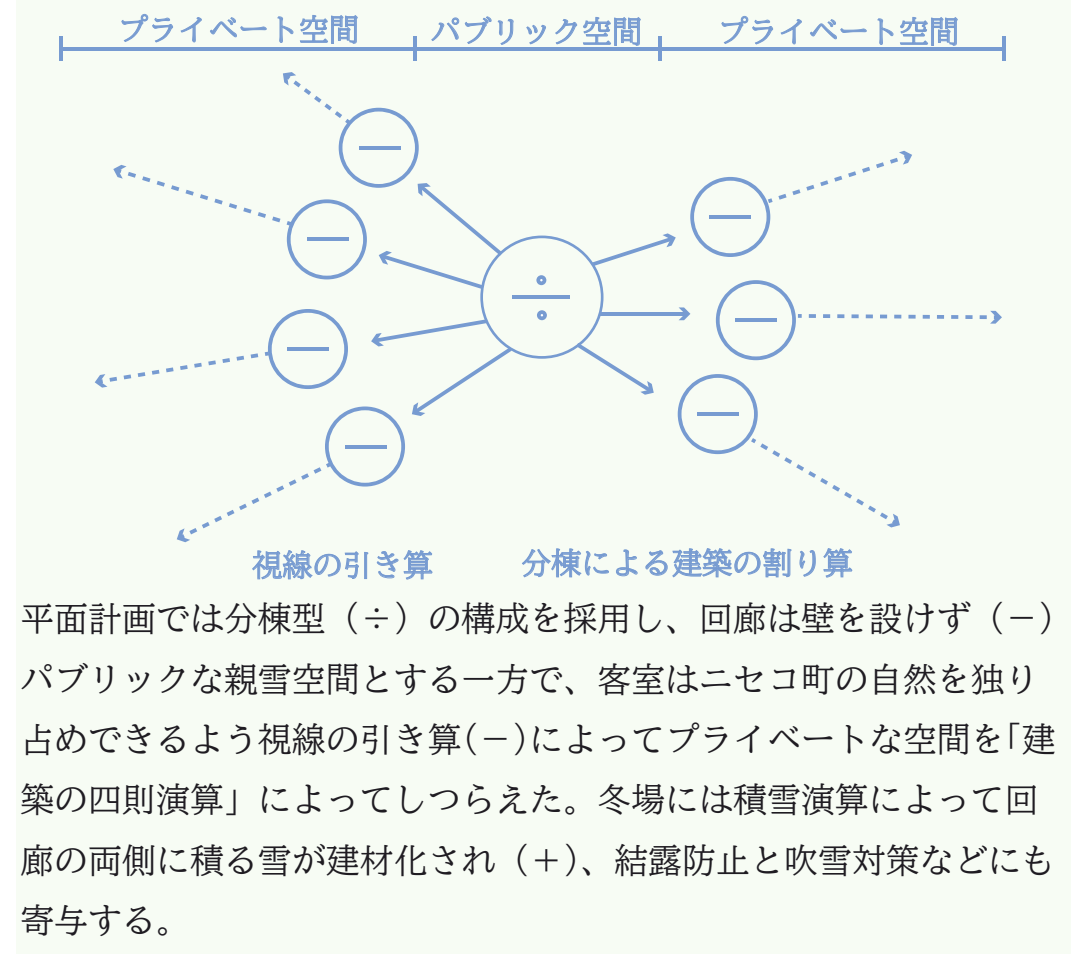


このホテルは、雪と共に姿を変える建築である。「 $+$ 」で雪を積み景観と一体化し、「 $-$ 」で雪が消えた後の地形や建築の美しさを際立たせる。「 $\times$ 」で建築と農地との融合を図り、「 $\div$ 」で建築のボリュームを分割し自然との境界を曖昧に。これらに限らず、様々な要素が計算された計画だ。

05 自然の四則演算



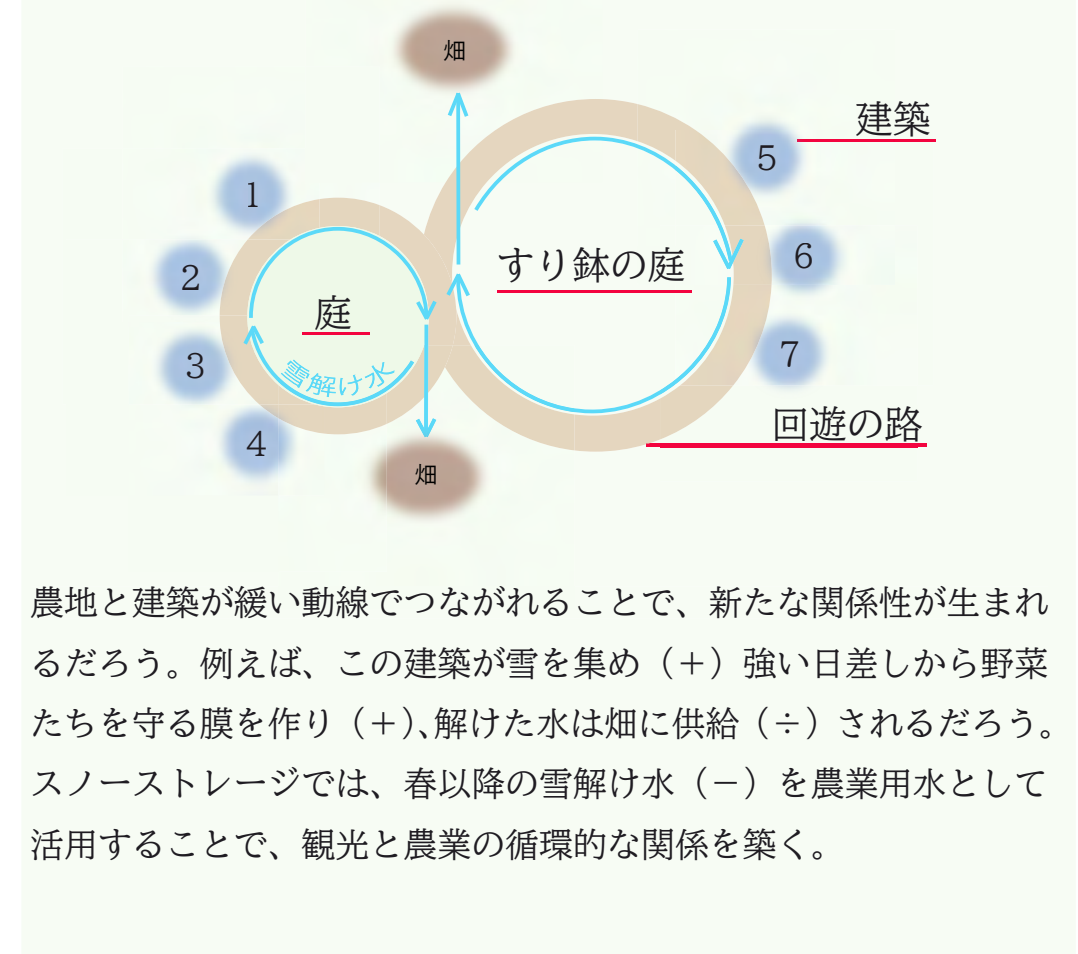
06 建築の四則演算



07 体験の四則演算



08 農地の四則演算



09 回廊の見え方

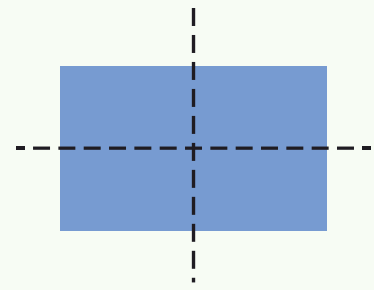


10 真冬の断熱効果 かまくら路



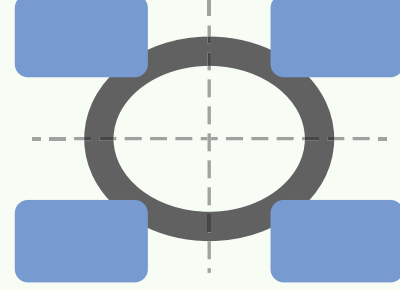
11 形態ダイアグラム

1. 割



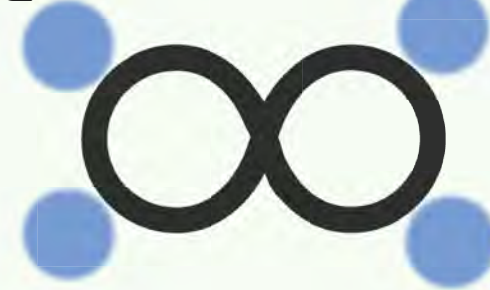
建築は空間の割り算から始まる
外と内、私と公のゾーニングを行う

2. 繋



それぞれの私室は持ちつつ
公の回廊で建物全体を繋ぐ

3. 巡



公の回廊をひねることで
動線 雪解け水 風や意識を巡らせる

4. 浮



3次的に回廊を浮かせて
Z軸（積雪）の変化を体現する

造語たち

01. スノーストレージ

→このホテル全体の積雪を調整する。夏季の雪解け水の留場。

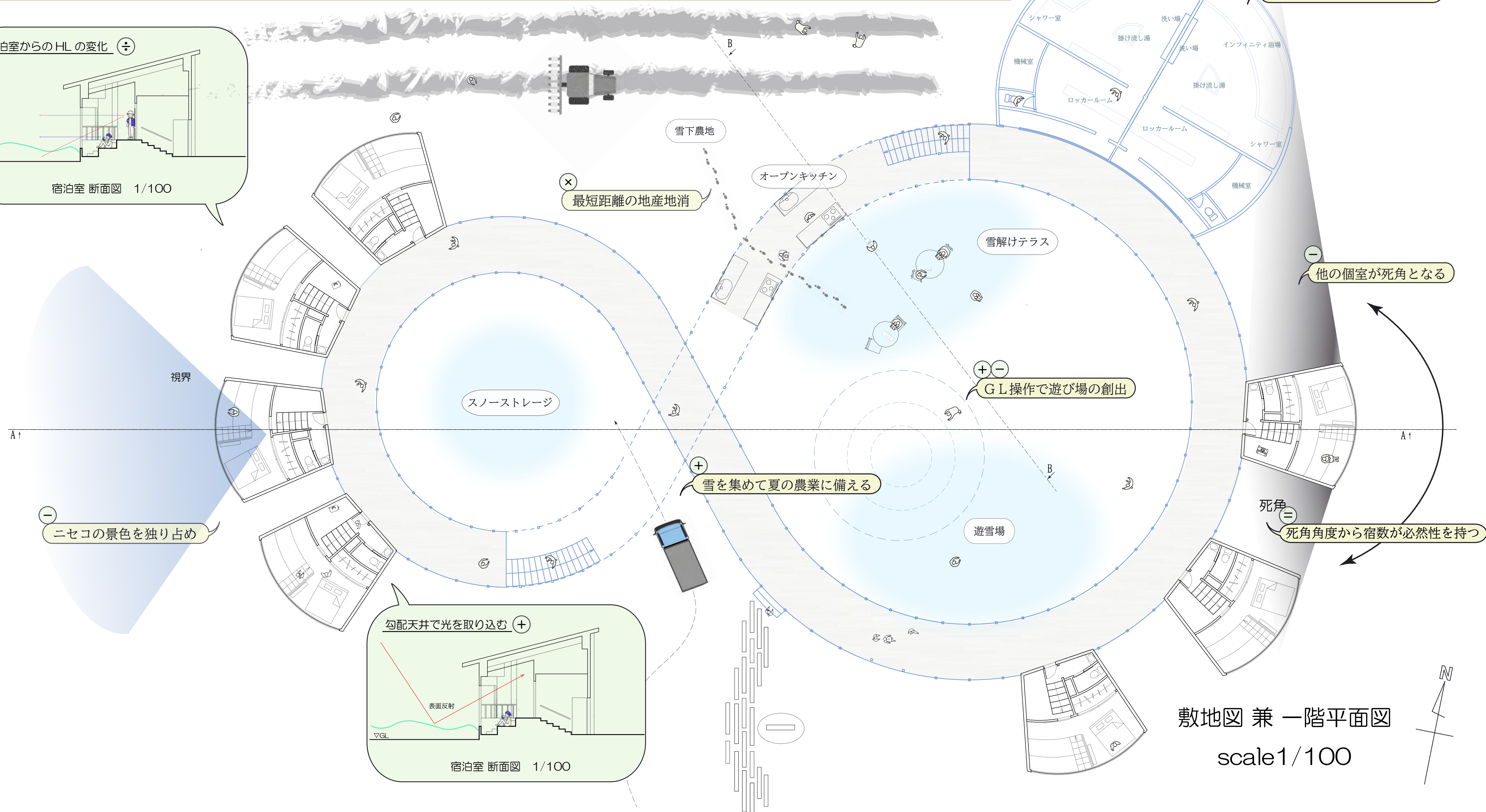
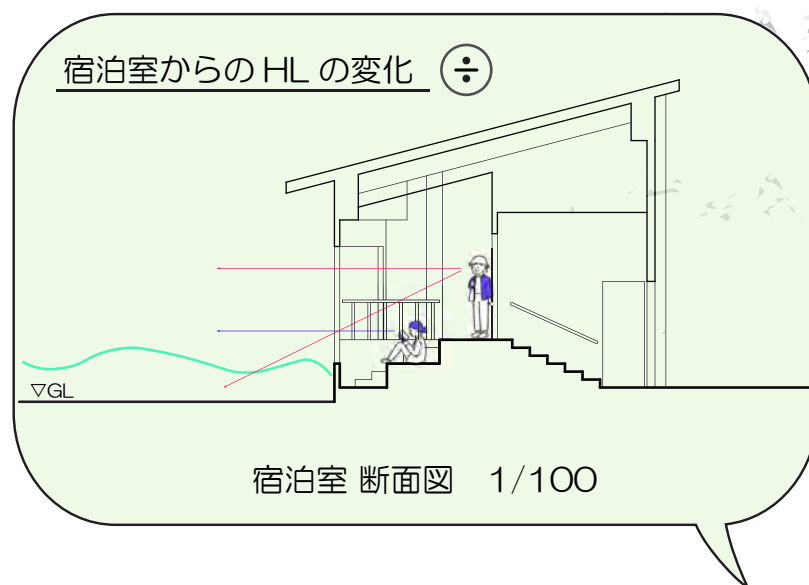
02. 雪解けテラス

→季節で変化する建材（雪）により、表情が変わるテラス。

03. 遊雪場

→残雪で季節によらず、一定の気温をキープする。

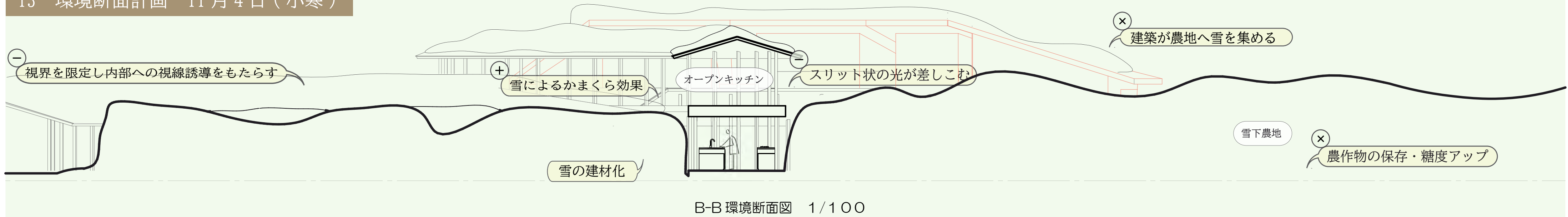
12 平面計画



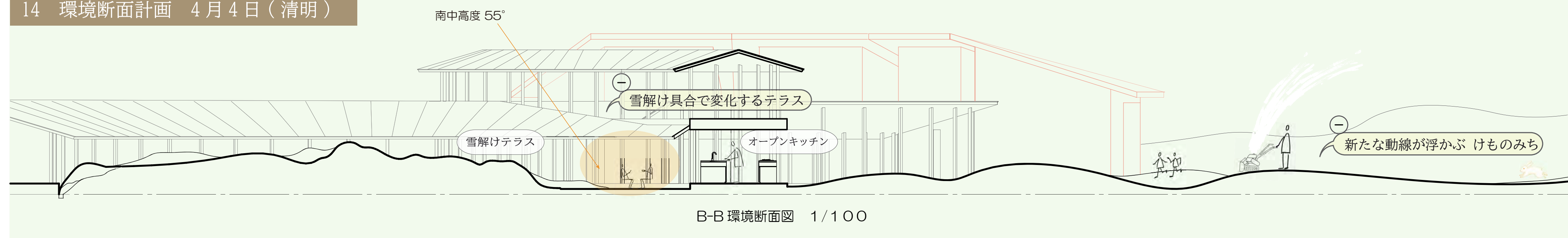
敷地図 兼 一階平面図

scale 1/100

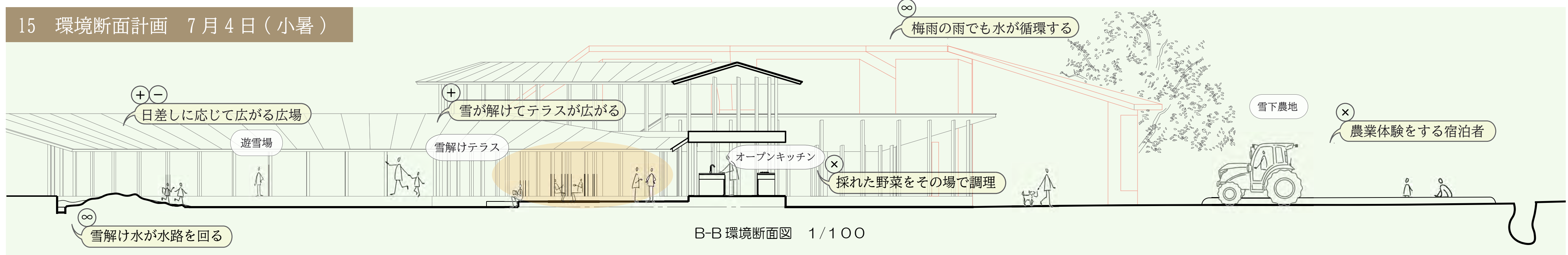
13 環境断面計画 11月4日（小寒）



14 環境断面計画 4月4日（清明）



15 環境断面計画 7月4日（小暑）



16 環境断面計画 10月4日（寒露）

